

# 問題解決的な学習 中学校（第1学年）

取り上げた内容項目

向上心、個性の伸長

## 「向上心、個性の伸長」に関する生徒の実態から

「自分にはよいところがある」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は60%程度であることから、自分のよさを理解し、それを伸ばしていこうとする態度につなげていきたい。

特別活動（6月）「進路について考えよう」

- ・将来の職業や希望とする進路や進学先等について考える際、自分らしさについて考える。

外国語（7月）「メイの好きなもの Project1」

- ・自己紹介をしよう！の活動において、英語で自己紹介文を書いたり発表したりする。

○主題名：「自己の向上」A－（3）

○実施時期：7月

○資料名：【「私たちの道徳」（中学校）P39～40, 42】

○ねらい：ありのままの自分を肯定的にとらえ、よさを見付けることができる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 自分の好きなところや好きではないところについて考える。	<p>○自分のことが好きだという人はいますか。</p> <p>○自分の好きなところを発表してください。</p> <p>（予想される生徒の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく、面白いところ。</li> <li>・部活動に一生懸命取り組んでいるところ。</li> </ul>
	2 「丸ごと自分を好きになる」の読み聞かせから、自分を好きになるためにはどうしたらよいのかということについて、課題意識をもつ。	<p>○自分のことが好きではないという人は、その理由を道徳シートに書いてください。</p> <p>（予想される生徒の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠点や短所が目立つから好きになれない。</li> <li>・自分にはよいところがないから。</li> </ul>
展開	<p><b>「丸ごと自分を好きになる」ためにはどうしたらよいのかについて考えよう。</b></p>	
	3 「あなたらしさがあなたの良さになる」を読み、自分のよさを見付けるために、グループで話合う。	<p>○友達から自分のよさや優れている面を見付けてもらい、道徳シートに書きましょう。</p> <p>（指示事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①グループになって、相手のよいところのみを言う。欠点は発言しない。</li> <li>②よさを見付けてくれた相手に「ありがとう」と必ず言葉を返す。</li> <li>③友達に見付けてもらった自分のよさを道徳シートにメモする。</li> </ol>

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆問題意識を醸成するために、自分の好きなところやその理由を書く時間を確保します。

段階	学習活動	主な発問等
展 開	4 自分の欠点や短所を、よさに変えることができないかを考える。	○他者から見付けてもらった自分のよさを、最初に書いた「自分が好きではない理由」と照らし合わせ、表題「あなたらしさがあなたの良さになる」を自分ごととして捉えて考えると、自分をどう捉えたらよいか、自分の考えを道徳シートに書きましょう。
	なぜ、あなたはそう考えたのですか。	(予想される生徒の発言) ・自分が気付いていなかったことも、自分のよさになる可能性があると思ったから。
展 開	5 P42のメッセージ「医師になったからには最期は人の役に立って死にたいと思っています。」という山中伸弥さんの文を読み、これからの自分の生活について考える。	(予想される生徒の発言) ・自分のよさを見付けて、伸ばしていくようにすること。
	山中教授のメッセージと今日考えたことと照らし合わせると、自分のこれからの生活で、どのような考えをもつことが、よりよい生活につながると考えますか。	
終 末	6 本時の学習を振り返る。	○今日の学習で考えたことを振り返り、ノートにまとめましょう。

◆生徒が主体的に考えを導き出せるようにするために、他者から見付けてもらった自分のよさを、最初に書いた「自分が好きではない理由」と比較しながら、「あなたらしさがあなたの良さになる」をヒントに自分のよさについて考えさせます。

中心的な発問

◆問題に対する考えを交流させることで、多面的・多角的な見方ができるようにします。

人間としての生き方について考えさせる発問

◆本時でねらう道徳的価値について、自分なりによりよい生活へ発展させていくことを考えさせます。

特別活動（9月）「生徒会の一員として」  
 ・学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりに向けて、自分のよさを生かしてどんなことができるかについて考え、実践する。

**（授業づくりのポイント②）**  
 問題解決的な学習において、児童生徒一人一人が課題に対する答えを導き出すためには、授業では自分の気持ちや考えを発表することだけでなく、時間を確保してじっくりと自己を見つめて書くことも有効であり、指導方法の工夫は不可欠です。また、この場合、話し合う場面を設定する際に、ペアや少人数グループなどでの学習を導入することが目的化してしまうことがないよう、指導の意図に即して、取り入れられる手法が適切か否かをしっかり吟味する必要があります。